

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175300334		
法人名	有限会社ライジング		
事業所名	グループホームいこい		
所在地	網走市天都山54番75		
自己評価作成日	平成26年12月20日	評価結果市町村受理日	平せ27年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [index.php?action\\_kouhvou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0175300334](http://index.php?action_kouhvou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0175300334)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日頃から家族とのコミュニケーションが円滑にとれるように、連絡を密に行っている。  
また、利用者がホームに入居される前からの人や地域とのつながりを大事にし、入居前からの関係性がとぎれないように適切な支援を行っている。  
利用者の人生観を大切に考え、失礼のない言葉がけや介助を行い、そのために常にスタッフ間で話し合いを行い、利用者が生き生きと自立した生活が送れるように配慮している。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成27年2月12日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

網走市天都山中腹の住宅街に立地したグループホームいこいは、平屋建て2ユニットで運営されています。玄関は共同で、中央にカウンターを設置した事務室があり、利用者の様子が把握できるようになっています。利用者、職員共にユニットを越えての交流が持たれており、自由な雰囲気があります。地域との交流も、日常的にさり気なく行われ、差し入れを持ってきた近隣住民が利用者と一緒に食卓を囲んだり、認知症に関する相談を受けたりと、地域に開かれた事業所となっています。管理者、職員は法人の基本理念に加え、事業所独自の理念「どんな時でも・わたしたちは・そっとお手伝いします」を介護サービスの基盤として共有し、利用者の尊厳を尊重し、一人ひとりに合わせたサービスの提供を目指していますが、更に、もう少し具体的な理念にしてはどうかと検討にも取り組んでいます。又、理念に沿った年間目標として「よりそう介護」を設定し、実践に努めています。施設長、管理者は職員の休憩時間は必ず確保する様にし、残業の無い様、就業環境整備に取り組み働きやすい職場づくりを目指しています。利用者の重度化が進み事業所の役割も変化しつつありますが、今出来る事を大切にしたい取り組みを重ねています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念が有り、その理念を日常生活やケアプランなどに生かし実践している。また地域密着型にふさわしい理念の再検討を進めている	基本理念を基に事業所独自の理念を作成し、ホールの壁に大きく掲げ、職員のみならず、利用者、家族とも共有しています。更に具体的な年間目標を作成し、実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の参加や運営推進会議のメンバー、ボランティア、慰問などあらゆることで地域の一員として交流している	散歩時に挨拶を交わしたり、差し入れを頂いたり、ボランティアの訪問に招待したりと町内の一員として相互交流に努めています。町内会の高齢化に伴い、認知症の相談を受けたりと地域に開かれた事業所となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から認知症についての相談や問い合わせがあればその都度対応させて頂いている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者やサービスの状況、取り組み等を報告している。そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者家族、町内会役員、近隣住民、地域包括支援センター職員、行政職員等をメンバーとして2か月に一度定期的に開催しています。状況報告、意見交換等話し合わせ、サービス向上に反映しています。	議事録を作成していますが、家族と情報の共有までには至っていません。家族、欠席メンバー、職員と情報を共有し運営に反映して行くことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等でホームの実情やケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築いている。	運営推進会議に行政職員の参加を得ています。運営に関する相談や情報交換等又、包括支援センターから困難事例の相談を受けたりと、連携を密に取り、サービスの質の向上に活かしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を受け全職員と話し合う機会を設けている。日常的にも身体拘束をしない介護をしている。また、玄関は夜間を除き施錠していない。	研修に参加した職員が伝達研修を行い、身体拘束に付いての理解を深めています。職員トイレに身体拘束の禁止事項を掲示し、浸透を図っています。言葉使いの気になる時はその都度注意をしい身体拘束をしない介護に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待対策委員会を中心に研修を受けており全スタッフが学ぶ機会をもうけ虐待を見過ごすことのないように常に話し合っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じて権利擁護に関する事柄を全てのスタッフに伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には利用者や家族が納得して頂くために十分な説明を行い、理解・納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見や要望に耳を傾けている。家族とは常に話し合う機会を設け運営に反映している	家族の訪問時に様子を伝えると共に、なかなか訪問出来ない家族には電話で連絡をし、何でも言って貰える関係を築いています。今年度は行事に合わせ家族会を開催し、利用者の様子をDVDにまとめ紹介しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員の意見や提案を聞き、スタッフ会議等でも聞く機会を設けている。	施設長、管理者は会議時や日常業務時に職員の意見や要望を聞く機会とし、就業環境整備や運営に反映する様に努めています。	定期的に職員会議を開催していますが、今年度は天候不順や職員の異動等で出来ていない月があり、又、研修参加も少ない状況となっています。工夫する中で会議の定期的な開催と研修の機会確保を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与ややりがいなどで向上心を持って働けるよう整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の力量を把握し、研修を受ける機会を確保している。また、研修の結果を全職員に報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ定例会やグループホーム部会等を通して同業者と交流している。また、慰問の時には声をかけ楽しむ機会を作っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始する段階で本人、家族が安心できるように、これまでの情報を収集しスタッフ間で共有をはかっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、入居に対しての不安、要望には耳を傾け、信頼していただけるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応で本人と家族が今どんな支援を必要としているのかを見極めた対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、出来ないことを見極め「してあげる」「させる」介護にならないよう、支え合いながら暮らしを共にしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にはいつでもホームに来て頂けるような環境を作り、家族との絆を大切に考え、家族にも本人の支援の協力をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時やホームを訪ねてこられた馴染みのひととの関係を大事にさせて頂いている。本人が行きたいところがあればできる限り出かけるようにしている	家族の協力を得ながら馴染みの理・美容室に出かけたり、友人知人の訪問を歓迎する等、利用者のこれまでの関わりを大切にしたい支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように関わる時間を設け支え合えるように努めている		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽にホームを訪ねてもらえるような環境を作り、これまでの関係を断ち切らない取組みをしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の意向を把握し、又、思いをくみ取るように努めている。	施設長、管理者、職員は利用者と接する中で思いや意向の把握に努め、職員間で共有し、自己決定等意向の実現に向けて取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から出来るだけ多くの情報を集め、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活状況に合わせ、休息が必要な方には時間を決め夜の安眠を妨げないように休息していただいている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、スタッフ会議とモニタリングの日を決め、家族の希望と同意を得て、介護計画を作成している	利用者、家族の意向を確認し、定期的なモニタリングを行い、利用者の状況に即した介護計画を作成しています。介護記録に介護計画の目標が記載されており、計画に沿った支援に繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践気づきなど個別に記録している。ケアプランを記録に載せいつでもプランに沿ったケアを実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診に関しては家族にお願いしているがその時々家族の状況を踏まえ柔軟な対応をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その時々にあった病院選びやボランティア、それまでのケアマネなどの資源を切らずに安全で豊かな暮らしを楽しんでもらえるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、納得が得られる医療機関で受診して頂いている。また往診を利用されている方もいる	定期受診は利用者のかかりつけ医との関係を大切に、家族対応で行っていますが、変化等がある時は同行支援を行っています。協力医により月2回の往診と、訪問看護が月1回行われ健康管理を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中では職場内の看護職員に相談して対応している。また、訪問看護の職員とも情報交換し適切な受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と情報交換を行っている。治療が終了後もいつでも受け入れが出来るように相互の関係作りも出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケア研修を受け、重度化した場合に供えている。家族と話し合いを持ち事業所で出来ることを理解して頂けるように取り組んでいる	事業所の方針を、利用契約時に、重度化した場合における対応及び看取りに関する指針で説明し、家族の理解を得ています。現在は医療体制が整わず難しい状況にありますが、出来る事を説明し支援するよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策委員会を中心に事故発生時についての説明、対応方法を学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力を得て防災訓練を行っている。全職員で年2回の本格的な実施訓練もしている。運営推進会議に於いて地域で何が出来るかの話し合いを行っている	昨年11月、消防署の指導と地域の協力を得て避難訓練を実施しており、本年3月に2回目を計画しています。緊急連絡網には町内会長が登録し、そこから会員へ連絡が行く体制になっています。その他の災害対策は、発電機やポータブルストーブを用意し、備えています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、今まで築き上げてきた誇りを大切に考え言葉がけにも配慮している。	利用者の人格や尊厳を守るよう配慮しています。トイレの内側にカーテンを付け直接見えないように取り組んだり、丁寧な言葉掛けを会議で徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で意志決定が出来るように一人ひとりの力量に合わせ働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の決まり事に合わせるのではなく、一人ひとりのペースに合わせた日常生活ができるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な入浴と毎日洗濯した清潔な物を着て頂いている。またその人らしいおしゃれが出来るように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや摂取状態で内容を変えている。準備や片付けなどは入居者の方と職員と一緒にやっている	献立は今のメニューを基に4パターン用意して1週間毎に立て、利用者の希望や好みや考慮しながら職員が調理しています。ドライブでの外出や買い物時には外食を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや摂取状況を把握し、一日の中で必要な栄養や水分量をその人にあった方法で無理なく摂取して頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の状態にあわせて口腔ケアの介助を行っている。夜間に関しては義歯洗浄剤で消毒している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを細かく把握してそれぞれにあったタイミングでその都度声かけやトイレ誘導をすることで失禁を減らしていくようにしている。	排泄チェック表や介護記録で利用者一人ひとりの記録を取り、パターンを把握したり、仕草や様子、雰囲気察知してその都度声掛けし、適切な排泄が出来るよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘時における周辺症状の現れ方を理解しており、食事内容や水分量を見直すことで、出来るだけ毎日排便して頂けるようにしている。下剤の調整も行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに入浴の希望を聞き、入浴を楽しんで頂いている。一人介助が困難になってきている方には二人介助をしている	ユニット毎にタイプの違う浴室があり、状況に応じて使用しています。入浴は週2回を基本とし、状態や状況に配慮しながら、拒否の強い利用者には根気よく声掛けをし、その気になるよう取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活状況に合わせ、休息が必要な方には時間を決め夜の安眠を妨げないように休息していただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のファイルを作成し、薬の目的や副作用、用法や用量等を全職員が理解できるようにしている。医師にも相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが充実した生活を送れるように職員が本人や家族に趣味や楽しみごとなどを聞き取り、毎日の生活支援に生かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出かけることが好きな方にはケアプランに載せ外出支援を行っている。また、市内や近郊の催し物をチェックし、個人の希望を聞きなるべく出かけるようにしている。	日常的に付近の散歩や外気浴を行っています。普段行けないところにもドライブで出かけたり、汽車に乗って楽しんでます。嘗て住んでいた住宅を見に行きたいとの希望があり、同行支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理している方もいるがホームで管理する人においても、支払時などは出来るだけ本人が支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればいつでも使用して頂き、電話の取り次ぎもやっている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は居心地よく過ごして頂けるようにそれぞれの方に合わせて椅子の配置をしている。季節感を感じることが出来るように飾り付けや空間作りに配慮している。	広い居間にはタイプの違う小上がりがあり、利用者は親しみやすいほうで寛いでいます。大きめの窓からは、遠方にオホーツク海が見え、壁には季節が感じられる飾り付けや行事の写真を掲示して楽しく、居心地良く過ごせるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々が一緒に過ごせる居場所の確保とともに、一人でゆっくりと過ごせる空間も大切にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や好きな物を持ってきて頂き、写真や自分の作品を飾るなどで居心地よい空間になっている	利用者の居室には、クローゼットが設置されています。使い慣れたベットや筆筒等の家具や仏壇を配置し、写真や家族からの手紙等を貼ってその人らしく落ち着いた生活が出来るよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全に生活できるように工夫し、自立した生活を送って頂けるようにしている。		